



ら・ら・らの
バックナンバー
(1号~100号)

過去の「ら・ら・ら」は
こちらの
QRコードから
ご覧になれます。



前号の第100号では、記念号として、これまでの情報誌「ら・ら・ら」のあゆみについて年表などで振り返りました。今号では、100号に続く記念号として、過去の「ら・ら・ら」で10号毎の誌面に寄稿された団体等に、当時を振り返るとともに現在の活動について紹介していただきました。

「ら・ら・ら」10号・30号・40号で寄稿！

おはなしなあに

副代表 松山 和子

2023年、「おはなしなあに」は40周年を迎えます。この年に「ら・ら・ら」101号に寄稿させていただきました。これは大変うれしい事です。

「おはなしなあに」は社会教育ボランティア団体として、ごも達におはなしの世界を届けたい、という思いで発足しました。その中で、親子のかけがえない時間の大切さをはじめ、多くの事柄を学ぶことができました。「ら・ら・ら」では「10号」「30号」「39号」「40号」と団体の紹介をさせていただき、随時イベントの情報も掲載しています。最近では、「HPで見ました」と、参加される方もいます。絵本や昔語りなどは人の声を持つ温かさや自分のために親や大人が読んで語ってくれるという幸せな時間を生み出します。



「おはなしなあに」の情報は今後「ら・ら・ら」に掲載されます。これからも「おはなしなあに」は大切なことを大切にしながら前を向いていきたいと思えます。いつでも、どこでもご参加ください。「ら・ら・ら」101号おめでとうございます。そしてこれからも、たくさんの方に情報をお届けください。

「ら・ら・ら」20号で寄稿！

つながる喜び

三浦 幸子

市主催の点訳者養成講座の門をたたいたのが、平成2年(1990年)のことでした。33年前になりますね。何もわからない状態で不安でいっぱい



だったことを思い出します。講座終了後は、点字ろくの会の仲間に入れて頂きました。点字ろくの会の会員は、ほぼ全員が点訳者養成講座の修了者で、心強く安心でした。点字器はライトフレージャーからパソコンに替わったり、難しい漢字に、品詞に悩み、点訳する本が変わるたびに、日本語の難しさを実感しています。戸惑うことも多いのですが、周りの会員に助けられ、今日まで続けられたことは、私の大きな財産になっています。会の記念誌に掲載された「ともに考え・ともに学び」というのがありました。常に勉強だと考え、終わりのない学びをしています。点訳奉仕をライフワークの一つとして続けていきたいと考えています。個々の力は小さくても、会員の皆の力が集まり、点訳奉仕が視覚障がい者の方々の、豊かな生活に、少しでもつながることを信じ、今日もパソコンに向い点訳をしながら、本の楽しい世界に夢を膨らませています。

「ら・ら・ら」30号・50号で寄稿！

普段着の国際交流

太田 佳美

「ら・ら・ら」の記念すべき号に記事を掲載していただき光栄に思い感謝申し上げます。

当協会IIシアは三十年余りの活動を続けておりますが、時の流れと共にその内容も変わってきておりま



す。会の創設時は外国の方との交流は特別感があり、「ゲストを迎えておもてなし」と張り切っていたような気がします。江別市を訪れる外国の方や留学生の数が増えるに従い、一緒に楽しもうという「普段着での国際交流」になってきております。技能実習生やこれまで会うことの少なかった国の人も出会え、地球の狭さや社会の変遷を実感する日々です。

「ら・ら・ら」40号で寄稿！

“見て感じて未来へつなぐ、だから子供たちへ”



江別認知症の人の家族を支える会

会長 三橋 満和子

生涯学習情報誌「ら・ら・ら」の101号発行を心よりお喜び申し上げます。

当会は平成元年より活動を始めて会の名称も「ほけ」「痴呆」「認知症」と呼び方が変わっていく中、家族の方への寄り添う気持ちはますます強くなっていくと思っております。2025年には5人に1人の割合でなるという認知症は、もう他人事ではなく身近な病気です。しかし、認知症に対する誤解や偏見が、家族の介護負担や虐待といった事態を引き起こす要因にもなっています。

当会は家族それと大人が中心となっていました。現在では「ヤングケアラー」といって家族介護のため学校へ行けない子供たちがいることを忘れてはなりません。

そこで、視点を子供、地域へと広げず劇・DVD動画などを通して認知症の知識と理解を広め安心して暮らせる地域づくりの一翼を担いたいと思っております。今、準備を進めており、小学生を対象にまた、地域へと活動を広げていく所存です。安心して地域で暮らせることを願って...

「ら・ら・ら」60号で寄稿！

設立30周年を迎えて

一般財団法人江別市スポーツ振興財団 事務局長 渋谷 研一

当財団は平成4年(1992年)6月1日に設立し、市民の皆様、行政をはじめ関係団体のご指導ご協力をいただきながら、昨年設立30周年の節目を迎えることができました。記念事業として、去る10月1日には陸上十種競技の日本記録保持者・右代啓祐選手(江別出身)を講師に招き、「トップアスリートに学ぶ!!陸上教室」を開催。市内小学生40名が「走る」「跳ぶ」「投げる」の基本を学びました。同日には、江別市民体育館グリーンホール場で三好市長や右代選手ら関係者を交え、八重桜の記念植樹を行いました。

今後の40周年50周年に向けて、江別市におけるスポーツ振興の中核組織として、また、健康で明るく豊かな人生100年時代を見据え、市民の皆様健康体力づくりに寄与できるよう職員一同さまざまな事業に取り組んでまいります。



「ら・ら・ら」70号で寄稿！

「ら・ら・ら」80号で寄稿！

「ら・ら・ら」90号で寄稿！

紙面とネットを繋ぐ取組み

生涯学習情報誌「ら・ら・ら」第101号 続・記念号に向けて

北海道大麻高等学校演劇部

顧問 山崎 公博

今年度、大麻高校演劇部は、東京で行われた全国大会に8年ぶりに出場しました。全国大会で上演した作品(Tip-off)は、コロナが収束した後の近未来を舞台にしました。コロナで翻弄された高校生たちが、久しぶりに学校にやってくる場面から始まります。

彼らは、コロナのせいで、部活の大会が中止になったり、見学旅行に行けなかったり、我々大人が過ごしてきた青春時代とはまったく違う日々を過ごしています。部の中心を担った3年生は、入学から3年間すべて、マスクをつけた生活を強いられ、生徒たちです。互いの顔をきちんと見ることがないまま、卒業していくことになるのは、誰が想像できたでしょうか？

劇のラスト、集まった仲間たちで夕日を背景にバスケットをするシーンがあります。やまない雨はない。誰かの背中を押すそんな思いを込めたつもりです。舞台上の彼らはマスクをせず躍動します。我慢した分、幸せな日々が皆さんのもとに訪れることを願っています。



メディアネット江別

中村 康治

「ら・ら・ら」80号(平成29年)から、メディアネット江別として私が委員となり、広報委員会での活動が始まりました。

私たち、メディアネット江別は、カメラ・ビデオなどを駆使して、江別の情報発信をしようと、活動を進めてまいりました。

それは、春夏秋冬の情景、種々イベントを撮影し、ネット配信して、江別の良いところを全国に、届けられたらとの思いでした。

広報委員として、「ら・ら・ら」発行に携わる機会を与えていただき、感謝しています。紙面だけの情報で伝えられることは、限られてくることから、QRコードの活用で、画像や映像またホームページなど紙面を飛び出して、広く情報を届けていたただけるようになったことは、非常に大きな進歩だと思っています。

そして、手話の会の方たちのご協力により手話動画が15編完成し、紙面からQRコードで観ることができるようになりました。

これからも、江別の情報発信を続けていくために、紙面とネットを繋ぐ取り組みを進めていきたいと思えます。



江別第一地域包括支援センター

保健師 斉藤 ひふみ

野幌第一地域包括支援センター

保健師 白石 ゆかり

生涯学習情報誌「ら・ら・ら」第100号及び101号の発行に際し、心よりお祝いを申し上げます。

私達は、地域包括支援センターの保健師として、その専門性を活かしながら、高齢者の健康づくりを推進する業務を担っております。

令和元年度の生涯学習リレー講座は、「地域と共に生きる」というテーマだったので、身近な地域での健康づくりについて講話を行いました。

「人とのつながりが続くこと」、「自分の居場所や役割が地域にあること」が、健康寿命の延伸になることを積極的に発信したく、「通いの場」の実践例を交えて、ご紹介いたしました。

その後、コロナ禍となり、地域を取り巻く環境は大きく変わりました。感染防止のため交流の機会が減少し、そのことが健康に与える影響を痛感しています。今は感染防止の視点を加え、当時と同様に、地域社会とのつながりの大切さを伝え続けていきます。

最後になりましたが、節目の機会に寄稿をさせて頂き、感謝申し上げます。



支援事業終了報告

今年度、江別市生涯学習推進協議会支援事業による経費支援を受けた2団体の事業が終了し、事務局に報告書の提出がありましたので、その内容について以下のとおり報告します。なお、今年度はこのほかに「江別子ども劇場」に対しても経費支援を行っています。事業の実施日が3月21日であることから、次号にて終了報告を掲載する予定です。

団体名 江別まっことええ&北海道情報大学
 事業名 第31回YOSAKOIソーラン祭り
 実施日時 令和4年6月8日(水)~6月12日(日)
 実施場所 大通公園をはじめとする札幌市内10会場ほか
 参加人数 39名(当日のみのサポート含める)
 支援金額 10万円
 事業内容 YOSAKOIソーランチーム(全国の参加を希望する195のチーム)によるYOSAKOIソーラン踊りの披露。
 「江別まっことええ&北海道情報大学」の演舞披露は、大通西8丁目ステージ2回、大通パレード15回、赤レンガ1回、1番街1回、カナモトホール2回、平岸3回、すすきの1回。
 事業効果 札幌市とYOSAKOIソーラン祭り組織委員会作成のガイドラインに乗っ取り、コロナの感染対策を演舞側、観客側、会場側が一体となって万全に行うことで、安心安全にYOSAKOIソーラン踊りを楽しんでもらった。今年、「江別まっことええ&北海道情報大学」が結成30周年の記念の年に当たる。応援し支えてくださるすべての方々に感謝の気持ちを届ける場とするとともに歴史と伝統を繋げる場ともなった。



団体名 江別市女性団体協議会
 事業名 創立70周年記念江別市女性大会
 実施日時 令和4年9月2日(金)
 実施場所 野幌公民館 ホール
 参加人数 220人
 支援金額 5万円
 事業内容 映画上映「大地の侍」
 講演「ふるさとを想う」
 講師：札幌学院大学 理事長 安孫子 建雄 様
 ピアノコンサート
 ピアノ演奏者：宮武 玲子 様
 事業効果 午前の部「大地の侍」では、北海道開拓のための先人の苦勞が忍ばれ、映像を通して歴史を学ぶことができました。午後の部では、札幌学院大学の安孫子建雄理事長が「ふるさとを想う」を語られ、幅広く、現在の問題について人生の中で学んできた事を現在の状況を通してお話して下さった。続いて、宮武玲子様ピアノ演奏では、童謡を通して、日本の文化「ことば」大切なことを学んだ。



これからのイベント

◆江別子ども劇場(連絡先/井谷:011-383-9661)
 ○地域公演「マイ・クロ・シアター」
 日時/令和5年3月21日(火・祝)
 14:00~15:00
 場所/野幌公民館 ホール
 対象/江別市内に住む親子(幼児~小学生)
 内容/ジャグリングなどのパフォーマンスを体験していただき、生の舞台の素晴らしさを知っていただければと思います。



「旅行」
 「QRコード」をスマートフォン・タブレット等のQRコードリーダーで読み取っていただくと、手話の動画がご覧いただけます。今回は「旅行時に役立つ手話」です。

《編集後記》
 「ら・ら・ら」は第100号記念号に続いて、第101号続・記念号を発行しました。続・記念号の特集記事として、「ら・ら・ら」の100号毎の誌面に寄稿をいただいている団体にあらためて記念の投稿をいただきました。「ら・ら・ら」の関わりや思い出エピソードなどたくさん書いていただきました。本当にありがとうございました。人生100年時代を迎え、生涯学習の場を作っていくことはますます重要なことになっていきます。関係者のご努力とそれを伝える「ら・ら・ら」をこれからもよろしく願います。
 折原 博美

生涯学習推進協議会のホームページでは、過去の各種事業の様子や、これからのイベントのスケジュールが見られます。QRコードからご覧ください。



まなぼう Vol.18
 大塚スポーツ振興会
 会長 石田 武史
 当会は、大麻地区のスポーツ団体相互の連絡協調と、必要な事項の協議を行い、大麻地区住民の誰もが、いつでも気軽にスポーツに親しみ、健康で明るく、楽しい大麻をつくることを目的として、スポーツ施設の整備や活用調整などを行っており、地区に所在するスポーツ団体と指導者によって組織されています。

